



地域おこし協力隊 として。

小林裕高

仙北市に来てから3度目の冬を迎えました。2017年2月1日から仙北市地域おこし協力隊として活動させていたのですが、まもなく任期の満了を迎えます。

これまでの活動の中でいろんなことにチャレンジさせていただきました。そして、その活動を通じてたくさんの人たちと出会い、関わり、楽しませていただきました。この経験や思い出は、これからの自分の人生にとって何物にも代え難い財産、糧となる(ように)でしょう。

振り返れば、TAZAWAKOBASEの立ち上げ、認知症・脳トレ・観光交流にと始めたボードゲームサロン。スタードーム作り体験の開催に四苦八苦した日々、乳頭温泉郷でのおもてなしもさせていただきました。折り紙で観光客を楽しませよう！と始めたORIGAMI普及活動。

椀木内のひだまりサロンでの折り紙教室開催に繋がり、大曲支援学校せんぼく校ではゲストティーチャーとして呼んでいただきました。町に今よりもっと賑わいを生かす場を作りたい！という思いで、製作した組み立て式屋台「秋田ヤマイ」。月に1度、甲冑などの衣装を披露する「サムライの日」。地域で奮闘する若い農家と農村音楽フェスの開催。刺巻湿原で開催したキャンドルナイトイベント(たいまつナイトだったような気も)。

そして、ユニバーサルツーリズムの認知・普及を目指した施設のバリアフリー調査。ハード(設備)は変えられなくてもハードは変えられるという思いに強く共感し、2年連続で開催させていただいた自治体初のユニバーサルマナー検定。講師としていらした岸田ひろ美さんにも本当に感謝しかない。これからも、毎年仙北市からユニバーサルマナー保持者が生まれていくことを願っています。世界イチ優しい町を目指していきましょう!!

行ける町から行きたい町へ！をテーマに、車いす利用者の新たな可能性を目指したJINRIKI(車いすけん引補助員)の普及活動。JINRIKIでの観光案内や、大曲支援学校せんぼく校の生徒さんと一緒にJINRIKIを使った町歩き。

スポーツ弱者を世界からなくそう！という思いで、ゆるスポーツ「殿様ベースボール」を東北楽天ゴールデンイーグルスさんと作らせていただき、楽天戦を観

に来たお客さまや、大曲支援学校せんぼく校の生徒さんと楽しみました。高齢者向けスポーツとしての可能性も感じた独自の球技でした。

大曲支援学校せんぼく校の生徒さんたちとの活動ではたくさん発見があったね。これからのなにか気づきに繋がってくれたらいいな。生徒さんたちと、もっともっといろいろな時間を過ごしてみたい。

角館高校の生徒会メンバーと企画した本気の雪合戦イベント。生徒会メンバーとはユニバーサルツーリズムに向けた活動もたくさんしました。関わってくれて本当にありがとう。

数えあげるとキリがないんじゃないかなってくらい、本当に本当にたくさんの人たちと出会い、繋がりをもち、過ごさせていただきました。あつという間の時間でした。おかげさまで仙北市の友だちがたくさんできましたよ(笑)。感謝しかないです。

『やっぱり大丈夫』

仙北市長 門脇 光浩

市長の まちづくり No.164 日記

年末年始、コンビニやスーパー・外食チェーン店などで、休業(または営業時間)の短縮(実験)が行われました。都内オフィス街にあるコンビニなどは、社員が長期の休暇に入る連休や年末年始で売上げの落ち込みがひどく、一方で店舗スタッフに特別手当の支給など、コストの

かかり過ぎが悩みの種だったと聞きます。そこに国の働き方改革が加わり、人員確保の難しさもあって、いよいよ休業実験に踏み切ったようです。国が消費税率アップと同時に実施した、キャッシュレス対応や軽減税率制度などで、実はコンビニ業界の売上げが伸びていることも見逃せません。タイミングはまさに今でした。

コンビニに限らず、農業も建設業も観光業も福祉業界も、人手不足は本当に深刻です。人口が減少し高齢者が増加しているのが当然です。地域の人材をフル活用する考え方から、公務員の兼業禁止も見直しが進んでいます。兵庫県神戸市では地域貢献応援制度をスタートさせました。NPO団体などに籍を置いて報酬も受け取り、一足のわらじを履いて活躍する市職員が増えているそうです。同様の

取り組みは、奈良県生駒市や宮城県新富町などにもあります。仙北市では、不足する消防団へ市職員が入団してもらったことから始めることにしました。

一方、これまでのような経済成長が見込めない中、働き方改革で残業や休日出勤が減った分を、自分や友人や家族の時間に使いたいと考えている若者が増えているアンケート結果があります。この現象は、例えば新たな文化や価値の創造だったたり、あるいは地域ビジネスの立ち上げだったり、また、カップルの誕生で出生数の底上げに繋がるかも知れません。コンビニや外食チェーンの休業は少し不便だけれど、きつと好ましい循環のスタートになればと思います。

歴史は繰り返されます。戦争や紛争と平和、経済の発展と崩壊、氷河期と温暖化、食糧不足と過食、善と悪、過疎と過密、人口減少の後には増加です。まったく絶妙のバランスです。今が辛い人は、明日は幸せがやってきます。だから大丈夫。今が幸せな人は次に苦しみがやってきます。でも、また次が幸せですから、やっぱり大丈夫です。

かくのだてフィルムコミッション ロケーションだより Kakunodate Film Commission

かくのだてフィルムコミッション
(仙北市観光課内) ☎43-3352
<https://kakunodate-fc.jp/>

昨年11月には、ドキュメンタリー映画「みちのく秋田 赤い靴の女の子」のロケ支援を行いました。

この映画は、明治時代に獄中で生まれるという数奇な生い立ちゆえに、生みの母と暮らすことが許されず、養母となったアメリカ人宣教師ミス・カラ・ハリソンと共に異国の地アメリカへと渡った、日本名「金子ハツ」という女性と、彼女と関わりがあった人々が織りなす、悲しく切なくも心温まる物語です。統轄プロデューサー・制作委員会委員長は、秋田市生まれの大山雅義さん、脚本・監督は、横手市生まれの石谷洋子さんです。また、横手市出身の女優、壇蜜さんが主人公ハツを獄中で出産する



壇蜜さんも出演している武家屋敷での撮影。

母親役で出演しており、秋田県内での撮影を主体に行っています。今春の公開が今から待ち遠しいです。仙北市内では松本家、岩橋家などで撮影が行われました。ちょうど撮影の際に、外国人観光客が武家屋敷通りを散策していて、興味津々で撮影現場を覗きこむことが多々ありました。撮影が円滑に進むように支援するのが我々の役目ですが、観光客の方々に不快感をせず楽しんでいただきたいため、片言の英語とジェスチャーで何とか誘導しました。仙北市でFC活動を行ううえで避けられない悩みでもありますが、ロケ支援と観光客双方の対応をしっかりと行っていきたいと思っていました。

(会長 坂本 洋)



講師をお呼びして、2年連続市内でユニバーサルマナー検定を開催。

うことをやるんだと思います。実現に向けて動き出せるんだと思います。そしてそれを自分の糧にして、町で暮らし、生きていく術を身につけていくのだと思います。町はそこに暮らす人たちが、暮らしを面白がって関わって、楽しむことができればなによりで、それが町のバトンを次の子どもたちに繋いでいくんじゃないかなと思います。

もちろん楽しいことばかりじゃないですし、厳しいのはみんな一緒で、それそれ日々の暮らしを懸命に守っています。それでも笑って過ごしてもらいたいって思っています。

最後になりますが、これまでこんな自分に関わってくれた皆さん、本当にありがとうございます。